

番号	質問	回答
19	<p>温水プールの1回の稼働にかかる費用について、夏と冬とでは異なると思いますが、概算でいいので教えてください。(1回2時間程度の想定)</p>	<p>①プールの稼働には、ボイラー及びろ過装置の稼働が必須で、天候や季節によっては照明や暖房の使用も必要となりますが、経費の大部分を占めるガス使用量について、プール用ボイラーと浴室用ボイラーのガスメーターが一緒のため、正確に把握することができません。</p> <p>②参考として、③あいほうぶ吹田のプールに関する機器の大きさ(消費量)と、④に一般開放事業の実施年度並びに中止年度(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため)における使用量の差及び使用料の差額の目安等をお示しします。</p> <p>③各使用設備、機器</p> <p>ア プール用ガス設備 64.3Nm³/H イ ろ過装置 約8.7kw ウ 照明 ㊦HIDランプ 400W 8か所 ㊧HIDランプ 150W 35か所 ㊨HIDランプ 27W 9か所 エ 採暖室 消費量不明 オ 空調暖房・床暖房 消費量不明。プール用ガス設備を稼働させると使用することができます。</p> <p>※1 基本的にア、イを稼働させ、必要性に応じウやエを使用し、気温が低い時期になるとオを使用します。</p> <p>※2 水温の設定は33度です。暑い季節では水温を7~8度上昇させ、また、寒い時期では20度以上上昇させる必要があります。直近の昇温テストでは、1時間で約1.6度の上昇でした。</p>

番号	質問	回答
19 【続き】		<p>④別添の質問19の回答に添付する資料をご確認ください。</p> <p>・資料中、1の(1)と(2)は、一般開放事業の実施年度と中止年度の各月平均使用量で、1の(3)は各使用量の差を示しており、1年間で、その差は、電気使用量が38,889kw、ガス使用量が51,041㎡となっています。</p> <p>・電気使用量の差は、実施年度における約1か月分相当で、ガス使用量の差は実施年度における4～5か月分相当です。</p> <p>・3の(3)は、電気、ガスにおける直近の支払額を基にした単価をそれぞれの使用量に乗じたもので、電気代で828,725円、ガス代で6,740,475円の差となります。</p> <p>・ガス代の差が一般開放事業によるプール、浴室の使用によるものとし、一般開放事業が年間104日あったとすると、1日の一般開放事業にかかるガス代は、6,740,475円÷104日より、約64,812円(浴室用ガス代を含む。)と見込まれます。</p>

番号	質問	回答
19 【続き】		<p>⑤6月13日に実施したプール昇温テストでのガス使用量の見込みについて</p> <p>プール用ボイラーと浴室用ボイラーのガスメーターが一緒のため、次の方法で見込量を算出しました。</p> <p>(式) (6月13日のプールと浴室のボイラーに係るガス使用量) - (6月に浴室ボイラーのみ使用した日の平均ガス使用量)</p> <p>(計算) $263\text{m}^3 - 60\text{m}^3 = 203\text{m}^3$</p> <p>上記使用料の見込みは、次の式により、約26,808円が見込まれます。</p> <p>(式) $203\text{m}^3 \times 132.06\text{円}$ (令和4年5月分単価)</p> <p>なお、昇温テストは次の条件下で行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施時間帯: 午前8時～午後2時の6時間 ・水温変化: 23.3度から33.4度まで (午後1時に、設定温度32.1度に到達した。) ・開始時の室内温度が23度と低かったため、午前8時から午後0時まで暖房(プールで使用するボイラーを使用)を用いた。